

論点整理に関する課題の再整理 (案) (赤色網掛けは、重点的に議論すべき事項)

	土木工事		新築、増改築工事		解体工事	
	分類		分類		分類	
	定常的な工事発注があり、建設リサイクルに対する発注者の意識が高い		定常的な工事発注があり、建設リサイクルに対する発注者の意識が高い		定常的な工事発注がなく、建設リサイクルに対する発注者の意識が低い	
発生抑制	建設ストックを大切にするという国民全体の意識改革が必要 () 発生抑制、長寿命化への積極的な取組が必要 ()		建設ストックを大切にするという国民全体の意識改革が必要 () 発生抑制、長寿命化への積極的な取組が必要 ()		建設ストックを大切にするという国民全体の意識改革が必要 () (1) 発生抑制について	
現場分別	分別解体等の共通ルールが必要 () (5) 現場分別について		分別解体等の共通ルールが必要 () 分別解体等の積極的な取組が必要 ()		分別解体等の共通ルールが必要 () 分別解体等の積極的な取組が必要 () 再資源化に支障をきたす資材等の分別に配慮が必要 ()	
再資源化・縮減	建設発生土・建設汚泥		建設発生土の需要と供給がアンバランス () 建設発生土が供給過多でありながら、新材が利用されている () 建設汚泥再生品の利用の促進が必要 () 汚染土壌、自然由来の重金属等を含む土砂がある () (2) 建設発生土の有効利用、建設汚泥の再生利用について			
	特定建設資材廃棄物	As塊、Co塊	将来的にCo塊と再生砕石の需給バランスが崩れる可能性がある () As塊の再リサイクル、再々リサイクルに向けて技術的課題等がある ()		将来的にCo塊と再生砕石の需給バランスが崩れる可能性がある () (3) As塊、Co塊の再生利用について	
		建設発生木材	サーマルリサイクルにおける建設発生木材の需要の高まりについても視野に入れつつ、再資源化市場の動向を注視する必要がある ()			
	特定建設資材廃棄物以外	再資源化困難物等	依然として技術面・コスト面から再資源化が難しいものがある ()			
		その他	広域認定制度等を活用した各種建材のリサイクルへの取組拡大が必要 ()			
	各品目共通		(6) 再資源化・縮減、適正処理の確実な実施について 関係者間の情報交換を充実させる必要がある () 再資源化された後の最終的な需要先を把握する必要がある () 発注者を含めた関係者の意識向上が必要 ()			
適正処理	依然として建設廃棄物の不法投棄が多い () 発注者を含めた関係者の意識向上が必要 ()					
再生資材調達	再生資材の利用促進が必要 () 原材料の品質・履歴等の情報が不足している () リユースの取組促進が必要 ()				(4) 再生資材の調達について	

注：丸付き数字は、論点整理 (資料 3 - 1) のそれぞれの論点より導かれる課題。